

■平成 23 年度計画の要点

◆基本的な考え方

●ビジョンの再確認：

23 年度計画策定にあたり、下記中期ビジョンに対し全職員が共有できるものとして再確認しました。

<JAGAT 中期ビジョン>

- ・これまで蓄積してきた印刷の資源・文化を継承させながら、印刷産業の適正進化を促すこと。
- ・それに伴う隣接産業との関係構築を促すこと。
- ・これらによりなくてはならない「公益性を持つ事業体」としてのポジションを確保すること。

社会環境・産業の変化に伴う IT 化とそれを基盤としたサービス化の流れはますます高まり、従来の印刷ビジネスと同時にクロスメディアなど関連サービスの必要性が高まっています。

JAGAT では印刷をはじめ、各種コンテンツ制作、情報発信などの関連ビジネスを展開する業種・業態についても相互の関係を深め、ともに共存、発展するよう努めて参ります。

そして私たちは、今後も新しい社会の公益に資することができる体制になるために、継続して変化を続けてまいります。

●全体基本方針：

各部門の 23 年度計画は下記基本方針に基づき構築しました。

現状認識と将来ビジョンを共有し、JAGAT 全体で合意形成のもと全社一丸となる風土づくりを目指します。

- ・2011 年は JAGAT 自身が生き残るための再生の年であると位置づける。そのためにあらゆることを従来の延長線で考えることをやめ、既成概念にとらわれず、新たな挑戦に立ち向かう。
- ・JAGAT “3 つの使命”のうち、テクノロジーの変化に乗って「示唆」だけしていれば良い時代は終わったとの認識を持ち、新たなブランドを確立し、魅力ある JAGAT になるために、ビジネスと直結した「具現化」と「定着」の視点に重きを置く。
- ・それぞれの部門・立場で、従来 JAGAT に足りない“コスト意識”と“営業マインド”を喚起する。

◆目標

●全体計画の要点、重点目標：

- ・新たな試み、チャレンジによる収入創出を図り、対前年実績 10%増を目指す。
事業活動収入 5 億 3171 万円。
- ・事務費等のさらなるコスト削減と業務効率化を図り黒字を確保する。
全体差益 232 万円。
- ・事業のプライオリティーを PAGE と資格事業に置き、全社それぞれの立場で戦略（商品企画や活動計画）を構築していく。
- ・『JAGAT info』『日本の印刷』のコラボレーションも踏まえ、新たな会員サービスの創出、提供方法の改善等を行う。

●事業の要点、重点目標：

*次頁以降の各部門計画をご参照下さい。

■研究調査部

◆部門方針および重点目標

●研究調査部部門方針：

- ・印刷業界を中心としたメディア産業に対して、適切な情報提供・助言ができるだけの力を持ち続ける。現在不足している部分は補完していく。
- ・具体的なビジネス立ち上げに関して協力できる体制を整えることを目指す。
現在研究調査部が有している技術的アドバンテージは「印刷市場分析」「DTP技術」「デジタル画像ビジネス関連（CG、デジカメ等）」「色」「XML」「Web（W3C）」であり、XML協議会やW3Cが母体になって生まれたJEPAや電子協等の中で中心的な役割を果たしている。これら関連組織とのアライアンスにおいて印刷業界や出版業界、さらにその周辺業界に対して貢献できると考える。また印刷市場に対しての調査能力、定点観測や経営力調査は一定の評価を得ており、この力をJAGATとして最大限使えるようにすることが研究調査部の役目だと認識している。

●計画の要点、重点目標：

平成23年度研究調査部では、以下の3点に特にフォーカスして活動を行う。

1.電子出版に関してイニシアチブをとる

電子出版エキスパート構想を推進する過程において、関係組織等の中で得られる情報を精査し、有益な情報を発信していく。印刷業界のアドバンテージも明確にしていきたい。

*JAGATの現状および業界、世の中の動き等を総合的に考えると「電子出版エキスパート制度」の立ち上げを研究調査部中心で検討～実行していくことが必要な施策である。

2.デジタル印刷の普及

従来のコスト意識やPODにとらわれないデジタル印刷啓蒙を目指す。

具体的には「デジタル印刷」準研究会を創設し、4～5人のコアメンバーによって研究テーマを決め、定例ミーティングを開催。情報発信を行いつつ、年2～3回程度のセミナーを開催する。

3.新しいビジネスモデル構築（CSR & 地域活性）

印刷業の生き残り策としての、各地域との密接な結びつきによるビジネス創出に対し、積極的に協力していく。

◆研究会事業

●テキスト&グラフィックス研究会（TG研）

- ・従来の組版とグラフィックス技術を基本として事業領域を拡大していく。同時に、研究会会員数の増加と従来事業のグレードアップを図る。

具体的には、印刷、出版分野のテキスト・組版・グラフィックスの関連情報を調査研究し、研究会会員に対して最新技術情報を提供し、近未来の指針を提示していく。

- ・以下を柱として、「電子書籍」と「デジタル印刷」をキーワードに魅力ある情報・コンテンツを提供し、会員維持と新規勧誘活動も行う。

①「電子書籍」関連：「XML」「Unicode、外字・異体字」「EPUB」について注力。

特に印刷会社向けに、電子書籍の組版ノウハウと電子書籍のためのカラーマネジメントを当面の差別化とする。

②「デジタル印刷」関連：ビジネスモデル、ワークフロー、テクノロジーについて注力。

③「TG ツール」を使用した電子書籍まで含んだ品質管理に注力し、印刷会社と共同研究していく体制を築き上げる。

- ・DTPエキスパート認証制度

問題作成、採点業務など認証試験運営に関わる取り組みを行う。

- ・色評価士検定試験

企画、問題作成、採点業務など検定試験運営に関わる取り組みを行う。

- ・技術情報の収集・加工・提供

①PAGE2012カンファレンスの企画。

②『JAGAT info』記事およびホームページ掲載記事などのための調査とそれらの記事原稿を執筆。

- ・テクノトレンド懇談会の開催
会合を実施する。グラフィックアーツ関連技術トレンドの把握と、トピック技術セミナー、PAGE2012カンファレンス・セミナーのテーマについて継続検討。
- ・一般情報の収集・整理
協会の各事業のために新聞、雑誌記事、各種統計の収集、整理、活用を継続実施。
- ・外部関連諸団体との連携
特にXMLやW3C、JEPA、電書協とは密接な関係を維持し、電子出版エキスパート等の作業を含め、研究会活動でコラボレートしていく。
- ・以下のテーマで研究会ミーティング21回、テックセミナー5回を予定している。
(研究会ミーティング)
 - 4月 面測色システム「カラーブレイン」による印刷の色管理
 - 4月 電子マニュアルとDITA技術
 - 5月 電子書籍フォーマットの動向 (EPUB3.0)
 - 5月 校正ツールの最新動向
 - 6月 DTPデータからEPUBへの変換
 - 6月 デジタル印刷とオンデマンドビジネス
 - 7月 ベクトルデータの標準化動向とSVG
 - 7月 デジタルサイネージと動画ビジネス
 - 8月 電子書籍とアクセシビリティを考える
 - 8月 成長するフォトブックとデジタル印刷
 - 9月 広がる電子カタログ (iPadカタログ)
 - 9月 CGとグラフィックビジネスの最新動向
 - 10月 XMLコンテンツ制作と組版レイアウト活用
 - 10月 電子書籍とカラーマネジメント
 - 11月 デジタル印刷とネットワーク出版
 - 11月 ICCプロファイル Version4とは何か?
 - 12月 電子コミックの最新動向
 - 12月 自動レタッチツールの最新動向
 - 1月 スタイルシート技術の応用 (CSS、XSL-FO)
 - 2月 LEDバックライト・液晶モニタの動向
 - 3月 PAGE2012の注目製品・技術
 - 3月 フレキソ印刷の動向(テックセミナー)
 - 5月 電子書籍の文字コードと外字
 - 7月 オフセット・オンデマンド
 - 9月 MLデータベース出版
 - 11月 DTP技術とネットワーク展開 (電子書籍)
 - 2月 印刷標準

●クロスメディア研究会 (CM研)

- ・印刷からデジタルメディアにまたがる情報発信事業分野に関する動向を把握、具現化を明示する。同時にメディアをクロスして展開するビジネスを進める上で必要な、技術の方向性やビジネスの動向を調査して情報を提供。また、情報通信、出版、印刷、広告など各分野で活躍する方を招き、ミーティングやセミナー、ワークショップなどを通じて、業界をクロスしたビジネス交流が実現するような場を提供する。
- ・紙メディアやインターネット、携帯、ユビキタスなど、クロスメディア展開するビジネスを進める上で必要となる、技術の方向性やビジネスの動向を調査し、先進性、客観性を重視した各種メディア、印刷関連のビジネス情報を提供する。
- ・特に、以下に注力し、会員減を食い止め、新規勧誘活動も展開する。
 - ①電子書籍のビジネスモデル (制作技術、ビジネス事例) セミナーに注力。
従来やっていなかった経営者向けの内容も試み、印刷会社の新たなビジネスモデル構築を目指す。

②Web プロモーション事例（クロスメディア、ソーシャルネットワーク活用）に注力。
企画・営業担当者向けのクライアントへの提案のヒントになるようなネタを提供する。

③Web 構築関連（HTML5・CSS3 など最新技術動向、構築ノウハウ）に注力。

④ソーシャルメディアに関する企画を立案し、印刷業に対しての影響を考える。

⑤クロスメディアエキスパートとのリンク。

試験とリンクした平易な内容を実施。

・以下のとおり研究会セミナー、XoverNight（クロスオーバーナイト）、テックセミナーを合計 16 回開催予定である。

4月 研究会セミナー テーマ：モバイルビジネス（2）

スマートフォンは誰が使っているのか～ユーザー像とスマートフォンアプリ制作の今後～

4月 研究会セミナー テーマ：Google Analytics

Google Analytics活用の基礎を学ぶ～アクセス解析についての考え方とツールの使い方～

5月 研究会セミナー テーマ：リアルタイムWeb

ソーシャルメディア時代のエンゲージメント

5月 XoverNight # テーマ：ブランド戦略

メディアを活用した課題解決とは ～「本屋大賞」の仕掛け人が語る企画発想術～

6月 研究会セミナー テーマ：Facebook vs Google

コミュニケーションメディアの大変革

7月 研究会セミナー テーマ：放送と情報通信動向

アナログ停波とLTE時代で何が変わるか

8月 研究会セミナー テーマ：IPv4からIPv6

IP枯渇から考える今後の情報ネットワーク

9月 研究会セミナー テーマ：スマートテレビ

AppleTVとGoogleTVの特徴、ネットTVとは

10月 研究会セミナー テーマ：メディアリテラシー

マスvsネット、情報格差社会

11月 研究会セミナー テーマ：情報アーキテクチャ

顧客に優しいメディアサービス設計

12月 研究会セミナー テーマ：インターフェース

多様なデバイスに対する構築で心がけること

1月 研究会セミナー テーマ：HTML5

これからのWeb設計

2月 研究会セミナー テーマ：位置情報

オタグで変わるユーザ導線

3月 研究会セミナー テーマ：AR

最新クロスメディアプロモーション事例

3月 研究会セミナー テーマ：著作権

国内海外の事例

3月 研究会セミナー テーマ：RFID

センサネットワーク技術の今

●プリンティングマーケティング研究会（PM研）

・PM 研究会は今までの内容をしっかりリファインしていくことと、地域活性にフォーカスした話題作りを考えることに注力する。

・『プリバリ印』の新連載として PM 研究会が担当する地域活性コーナーを企画。地域の特色ある印刷会社を題材に印刷業の近未来的な姿を浮き彫りにしていく、といった新たな展開を考える。

・以下のとおり研究会ミーティングを 12 回開催予定である。

4月 印刷会社の M&A と危機管理

5月 印刷会社の地域活性化

6月 新聞業界と新聞メディア

7月 フリーペーパーの最新動向

8月 折込広告の最新動向

- 9月 出版業界・電子出版
- 10月 通販に見るクロスメディアの状況
- 11月 製紙業界・用紙流通の状況
- 12月 米国印刷業界動向と見通し
- 1月 国内印刷業界動向と見通し
- 2月 印刷会社の海外展開
- 3月 各種アワードの受賞印刷会社に聞く

◆研究調査事業

- 1.PMP システム（標準原価）
PMP（標準原価）に関するセミナー・コンサルを継続する。
- 2.全日本印刷工業組合連合会関係
全印工連の印刷産業戦略デザイン室、業態変革企画推進室、教育・労務専門委員会などに引き続き参画する。
- 3.ワークフロー構築
デジタル印刷を視野に入れた次世代のワークフロー、生産管理の在り方・システムについて、エフアイエスをモデルにメタテクノと事業化まで踏み込みたい。
- 4.EDI
用紙調達の標準 EDI 実施に向けたカミネットとのプロジェクトに継続して取り組む。
- 5.色関係サポート
セシール案件は 2011 年度も継続となる。
- 6.必要情報収集のための調査研究
印刷会社の生産現場の課題、ニーズ把握を行う。成果は『JAGAT info』に技術情報として提供。
- 7.定例調査
 - ・定点観測を定例実施する。
 - ・経営力アンケート
 2011 年 2 月実施調査の集計、分析、報告（『JAGAT info』記事および『JAGAT 印刷産業経営動向調査 2011』）を行う。

◆その他

●JAGAT カンファレンス in JP

好評だった PAGE2011 カンファレンスを受けて、JP2011 会場でミニ版の PAGE カンファレンスを開催する。「電子書籍 DAY」「デジタル印刷 DAY」「印刷市場 DAY」と各日テーマを決めて、一日 2 本ずつ合計 6 本のカンファレンスを行う。
これを足がかりとして、3 カ月に 1 回程度の 3 研究会合同研究会 in 大阪を企画したい。

●トピック技術セミナー

会員サービスの一環として開催する。機材紹介冊子を作成し、広告収入を得ることも視野に入れる。

●PAGE2012 カンファレンス

PAGE2011 の午前中に基調講演、午後に各カテゴリーのカンファレンスという形式は成功だったので、PAGE2012 も踏襲したい。グラフィックスカテゴリー、ダイレクトマーケティングカテゴリー、印刷マーケットカテゴリー、クロスメディアカテゴリー、デジタル印刷カテゴリー、印刷マネジメントカテゴリーの区分は継続する予定である。開催本数は 21 本を予定している。

■教育サポート部

◆部門方針および重点目標

●教育サポート部部門方針：

- ・印刷産業の人材育成をサポートする教育コンテンツを開発、提供する。
- ・セミナー、資格事業の下降傾向に歯止めをかけ、同時に通信教育を見直し受講者増を実現する。
- ・クロスメディア人材育成のための教育カリキュラムを開発、提供する。
- ・部門全体で人材育成、教育について考え、部員一丸となって知恵を出し合う。

●計画の要点、重点目標：

- ・JAGAT の特色を活かした教育コンテンツを開発、提供する。
- ・セミナー事業 5160 万円、資格事業 8222 万円、通信教育事業 3000 万円、刊行物事業 1612 万円の収入を確保する。
- ・部門内事業すべてを助け合い、事業向上のための施策を考え実行する。
- ・会員企業の現状、意見を積極的に聞き取り入れコンテンツ制作に活かす。

◆セミナー

- ・東京、西部支社ともに 2011 年度は前年度実績約 2 割増収を実現する。
- ・各印刷工業組合との連携強化を図りセミナー等を開催する。
- ・受講者数の少ないセミナーの開催数見直しによる効率化を図る（セミナー開催数 2010 年度 180 本予定、実績 148 本、2011 年度は 138 本とする）。
- ・JAGAT の特色を活かすセミナーの企画を強化する（座学形式に捉われず、演習、作り出す、ディスカッション等、内容の差別化を図る）。
- ・新テーマとして、電子書籍関連、デジタル印刷の動向・活用、印刷会社の環境対応、印刷会社の CSR の取り組み、印刷現場の管理、人と会社を活かす人材育成、印刷周辺ビジネス、営業養成塾などの講座を開発、提供する。
- ・既存セミナーの 25% を改訂し、内容・価格ともに会員企業にとって魅力的なものにする。
- ・大型セミナー（幹部ゼミ、印刷営業 20 日ゼミ）は、価格、内容、研修施設ともに大幅に見直し、会員企業がより参加しやすいよう改訂する。
- ・クロスメディア人材育成に関する中型セミナーを開発、提供する（人材育成を中心に考え、クロスメディアエキスパート認証試験にもつなげる）。
- ・JUMP と連携したセミナー、資格プロモーションを積極的に行う（東北、中四国、近畿、九州、中部の 5 カ所を予定）。
- ・技術フォーラムとのコラボレーションなどを検討する。
- ・セミナー受講得意先企業を積極的に訪問する。（現状の把握、情報収集、人脈づくり等）
- ・ライブ中継セミナーを継続開催する（西部支社では 70% 超を東京講演ライブ中継で実施中、講師折衝、販促依頼、レジュメチェック、運営、受講生へのヒアリングおよびアンケートをもとにした次回への反省、改善を図る）。
- ・ライブ中継セミナーの全国展開を検討する。
- ・PR の手段、方法を見直し効果的なアプローチを実現する。

【西部支社】

- ・大阪独自講師の発掘とセミナー（勉強会、ナイトセミナー月 1 回）の開催による活性化を実現する。
- ・ナイトセミナー、ワークショップ、印刷経営者講座を定期的で開催する。

●実施計画

※（ ）内はライブ中継セミナー本数

	本社	西部	組合・地方	認定講習	PAGE	合計
実施予定本数	138 (34)	78 (34)	17	3	14	250本
集客目標人数	1315	831	425	100	620	3291人

◆通信教育

- ・通信教育は、社会人にとって有効な教育ツールの一つであることを再度、印刷業界に訴求する。同時に、既存の通信教育講座を見直し、改善、改訂の優先順位を考慮した上で変更作業を行っていく。
- ・主力講座である「新入社員コース」「印刷技術基本コース」や、資格制度と連動した「クロスメディア知識習得コース」講座などの内容見直しを行う。
- ・受講企業の分析を再度行い、受講内容の偏り（新入社員コースのみ等）、受講本数を考慮した企業への提案などを積極的に行っていく。
- ・新たな通信教育として「プロモーション・マーケティング基本知識講座」「印刷現場の予防保全講座」を用意（2011年4月開講予定）し、受講促進を行う。

●実施予定

以下のコースを開講する。 （*）・・・新コース

【新入社員対象通信教育コース】

- ・新入社員
 - ・印刷・技術基本
-

【営業対象通信教育コース】

- ・DM・チラシで実践するマーケティング発想力育成
 - ・印刷営業の基本と実務
 - ・印刷営業の受注力UP
 - ・営業のためのCTP講座
 - ・プロモーション・マーケティング基本知識講座（*）
-

【印刷対象通信教育コース】

- ・印刷技術総合講座 デジタルプリプレス
 - ・印刷技術総合講座 印刷・製本加工
 - ・印刷技術総合講座セット
 - ・印刷メディアの企画制作コーディネート
 - ・印刷技術者
 - ・印刷技術者のための品質アップ講座
 - ・印刷技術者トラブル解決
 - ・製本加工の知識と管理
 - ・印刷・製本加工専門
 - ・印刷現場の予防保全講座（*）
-

【DTP対象通信教育】

- ・印刷物デザイン設計実践
 - ・日本語組版
 - ・カラーマネジメントコース 基礎編
 - ・カラーマネジメントコース DTP・デジカメ編
 - ・DTPエキスパート通信添削模擬試験
-

【クロスメディア向け通信教育】

- ・クロスメディア知識習得
 - ・XMLテクニカル実践
-

【法務マネジメント通信教育】

- ・印刷ビジネスのための法務
-

【その他】

- ・大手通信教育実施企業3社と販売代理契約継続（産業能率大学、日本マンパワー、PHP研究所）

◆資格制度

- ・印刷産業の人材育成をサポートできる資格制度を確立する
- ・資格のためのコンテンツではなく、人材育成を考慮したコンテンツにするよう内容を見直す

・本試験目標受験者数	DTP エキスパート	1300 人（前年 1336 人実績）
	クロスメディアエキスパート	500 人（前年 285 人実績）
	色評価士検定	50 人（前年 36 人実績）
・更新試験目標更新率	DTP エキスパート	85%
	クロスメディアエキスパート	90%

【DTP エキスパート】

受験者数は、2003 年をピークに平均約 10%の減少を続けている。2011 年度方針では、受験者の大きな比率を占める企業受験に目を向け、積極的な訴求を行っていく。また、更新試験においては、資格制度予算の約半分を占める重要な取り組みと位置付け試験内容の精査に注力し、有資格者のモチベーション向上と更新試験自体の有効性、重要性を確保する。さらに、有資格者への優待制度をより充実させる。

また、各地印刷工業組合の協力、連携のもと新たな試験会場を試行し、受験者の利便性向上と受験者増への施策を行っていく。

【クロスメディアエキスパート】

認証試験開始から受験者数が伸び悩んでいる。DTP エキスパート同様、企業受験の増加に注力し、内容認知のための企業訪問、セミナーなどの活動を広報企画部、CS 部と協力して行っていく。

また、市場が求めるニーズ（出題内容、難易度など）を踏まえ、ニーズに合わせた試験制度のしくみ、内容、コンテンツを用意する。

JUMP、地方セミナー、組合との共催セミナーを通して、人材育成だけではなく資格試験プロモーションのためのセミナーを積極的に実施する。

運営面については、協力会社との連携を含め、効率化を継続検討する。認証試験の CBT（Computer Based Testing）化を視野に入れた検討も同時に行う。

●活動計画

・DTP エキスパート認証制度

①DTP エキスパート認証試験（36 期・37 期）を 8 月、2012 年 3 月に実施予定。

②2 年ごとの更新対象者は、8 月および 3 月で、試験を実施（問題発送／在宅受験）する。今後とも高い更新率の維持が見込まれ、更新型資格制度をベースとした事務局運営を行っていく。

・クロスメディアエキスパート認証制度

①クロスメディアエキスパート認証試験（12 期・13 期）を 8 月、2012 年 3 月に実施予定（DTP エキスパートと同時開催、会場も同じ）。

②2 年ごとの更新対象者は、8 月および 3 月で、試験を Web 上で実施する。

③マスメディア市場の変化に伴うマネジメント人材の教育と確保を行う。

※今後も効率よいクロスメディア展開に対応、提案ができるクライアントにとっての“良き相談相手”の必要性を、業界にとどまらず広く啓蒙するために、認証制度の認知を図る。

・色評価士検定制度

①色評価士検定試験（第 7 回・8 回）を 8 月に実施、2012 年 3 月以降の実施方法を検討する。

②日本の色再現技術を牽引する人材の教育および発掘を行う。

◆刊行物

刊行物は、JAGAT 教育ツールのなかでは、手堅く推移している。しかし、インターネット等の電子媒体が大きく影響する現在、商品の有効性、独自性が乏しくては商品としての価値がない。したがって、既存の刊行物を見直し、改善、改訂の優先順位を考慮した上で見直し作業を行っていく。

特に、印刷技術基本関連や印刷白書は主力商品であるため、内容の見直し等は慎重に行う必要がある。

刊行物全体では、印刷技術基本、エキスパート資格関連、印刷白書など JAGAT ならではの商品が強いことが明らかであるため、今後もこの分野を中心に内容を精査し販売に注力する。

また、新たに『DTP エキスパート受験サポートガイド』(2010年12月発刊)、『クロスメディアエキスパート受験サポートガイド』(2011年1月発刊)の2種の発刊を機に、2011年度も積極的にPRおよび販売を行っていく。

●販売予定

主な販売書籍は以下のとおり。

【新入社員対象】

- ・印刷入門
 - ・はじめて学ぶ印刷技術 印刷・製本加工編
 - ・はじめて学ぶ印刷技術 デジタルプリプレス編
-

【営業対象】

- ・印刷トップセールスマンの条件
 - ・印刷受注必携
 - ・新規開拓Q&A 第1巻(効率の営業編)
 - ・こんな間違いDM作っていませんか?～目からウロコの改善提案70～
 - ・勝てる営業・考える営業
-

【印刷・製本技術】

- ・製本加工ハンドブック 技術概論編
 - ・製本加工ハンドブック ソリューション編
 - ・製本加工ハンドブック マネジメント編
 - ・オフセット印刷技術 作業手順と知識
 - ・オフセット印刷技術 トラブル解決
 - ・オフセット印刷の変動要素230
-

【DTP・制作関連】

- ・新 印刷メディアの基本設計
 - ・Desk Top Prepressはやわかり図鑑
 - ・便覧 文字組みの基準
 - ・実例でわかるデジタルイメージング
-

【資格試験関連】

- ・DTPエキスパート受験サポートガイド
 - ・クロスメディアエキスパート受験サポートガイド
 - ・眼・色・光
-

【プリンティングコーディネータ対象】

- ・デジタル時代のプリンティングコーディネーション
-

【法務マネジメント】

- ・デジタル時代の印刷ビジネス法令ガイド

■CS 部

◆部門方針および重点目標

●CS部部門方針：

- ・JAGAT 全事業の営業部門として、訪問活動を中心に個別企業に対するヒアリングを実施し、顧客満足度の向上を図る。特に人材育成プログラムの提供など、印刷企業の発展に貢献する。さらに従来の印刷メディア事業分野の深耕と拡大を図るための活動をする。
- ・JAGAT 教育事業の重点を「クロスメディア人材育成」とし、JAGAT 具現化・教育事業の商品開発の重点となる領域の一つを「販売促進」とする。
- ・これらを個別企業の要望に応じた提案として展開し、その営業活動から、入会、コンサルティング、資格受験、プリバリ印企業購読、PAGE 新規出展、広告新規クライアントを得る。

●計画の要点、重点目標：

- ・印刷会社の仕事を広げることができる人とは、クライアントのよき相談相手となれる人である。それはクライアントにソリューション提案できる人であり、その要件を満たす人がクロスメディアエキスパートである。そのための要件を、クロスメディアエキスパートとなるためのステップと幅として示し、それに対応した具現化および教育メニューを設定・展開する（教育サポート部・広報企画部との協働）。
- ・良き相談相手となるステップの第1段階として、DTP エキスパートを位置づける（印刷産業に従事する人が取得しなければならない資格）。
- ・これらのビジネスを実現するソリューション、システム、ツール、プロバイダー（パートナー）が一堂に会する場を PAGE とする。

◆会員

・2011 年度目標：

- ①JUMP：2社／1回×5回＝10社
- ②JAGAT 事業参加：10社
- ③PAGE2012 出展：10社
- 合計：30社（内再入会：5社）
- ・JUMP5回にCS部員延べ7人が参加し、各地域非会員訪問と合わせ入会促進を行う。また、JUMP開催後の訪問およびJUMP開催地域でのセミナー開催（広報企画部および教育サポート部）により入会フォローを展開する。
- ・JAGAT 事業参加非会員への入会促進を実施するとともに、入会促進対象および元会員企業に定期的にJAGATのお知らせを配信し（広報企画部と協働）、入会促進に結びつける。
- ・PAGE2012 新規出展プロモーション対象へのJAGAT 媒体活用提案を行う。

◆コンサルティング

- 1) 新テーマとして、印刷会社のビジネスモデルづくりにつながる共同研究会／事例研究会／合同勉強会を設定する。
 - ①販売促進コンサルタント養成塾（仮称）
 - ②販売促進事例研究会（仮称）
 - ③デジタル印刷事例研究会（仮称）
- 2) 企業経営の基盤となるテーマのショートコンサルを設定する。
 - ①職能制度の見直し
 - ②目標管理（進捗管理）
 - ③評定者トレーニング

- 3) DTP エキスパートカリキュラムに準拠する講座および通信模擬で企業研修メニューを設定する。これらの新テーマの実施を、教育サポート部講習会と連動させ、講習会開催案内・ホームページ・メール配信を通じた告知手段を組み立て、新テーマ案内とともに既存メニューの案内を組み合わせ、販売促進を図る。

◆雑誌『プリバリ印』

- ・編集方針変更による掲載内容に対し、購読者からは評価される内容となった。それを部数拡大につなげるアクションを組み立てる。
 - ①会員未購読企業
 - ②法人データ未購読企業
 - ③プリンターズサークル～プリバリ印非継続企業
 - ④プリバリ印創刊年度購読・2年目非継続企業
 - ⑤3カ月購読非継続者
 - ⑥企業：多部数購読の勧め
日常企業訪問活動の中での対象選定
 - ⑦DTP エキスパート／認証制度販促との連動
 - ⑧個人：1冊購入容易さ
JAGAT Web 登録者、PAGE 来場メアド登録者：メルマガ配信
 - ⑨取材を切り口として販売成果につなげる
 - ⑩JAGAT 事業機会の利用（案内書配布）：全社協力のもと
- ・教育事業の重点である販売促進に関する連載記事を企画、その連載と連動するセミナーを設定、相乗効果を期する。また、連載後の書籍化を検討する。

◆広告

PAGE 出展プロモーション対象企業に対する JAGAT 媒体活用提案を行う。
IGAS および PAGE に合わせた媒体企画提案、ユーザー取材連動広告等の提案を行う。

●活動計画

- ①『プリバリ印』『JAGAT info』誌の広告拡大を図る。
- ②『プリバリ印』『JAGAT info』誌上で企画を展開し、既存クライアントへの広告および販促物提案と新規クライアントを発掘する。
- ③print-better バナー広告の広告獲得。
- ④『JAGAT info』PAGE 特集広告活動。
- ⑤PAGE2012 等イベント関連販促物をターゲットとした広告活動。

◆PAGE／イベント

2011 年度（PAGE2012）目標：A2・A3・B・C・D ホール使用

新規出展対象として、

- ①クロスメディア・ビジネスの実現を目指す印刷会社のパートナーとなるベンダー／プレイヤー
- ②印刷会社の販売促進ビジネスを実現する仕組みを提供するベンダー／パートナー
- ③クロスメディア・ビジネスおよび販売促進ビジネスを実現している会社

既存出展からの重点として、

- ①デジタル印刷
- ②MIS（全体最適、リアルタイム・マネジメント）
- ③1to1／DM

を設定し、出展プロモーションを展開する。

■ 広報企画部

◆ 部門方針および重点目標

● 広報企画部部門方針

- ・ 22 年度からの“チームで動く”という部門全体のミッションと共に、23 年度はそれぞれの得意分野でリーダーシップを発揮して、より外部を巻き込んで事業運営していけるようにする。
- ・ 全体として、「広報＋マーケティング＋営業（販促支援）＋編集＋企画」能力を向上していく。
- ・ 殊に、以下 2 点について強化を図る。
 - * 販促サポートを強化する
 - ・ 入会促進のために、CS 部と連携のもと人的支援により新たな切り口で活動する。
 - ・ クロスメディアエキスパートを中心とした資格受験者増に向けて、資格制度事務局、CS 部との連携を強化する。
 - * 顔の見える JAGAT のさらなる推進と、JAGAT ブランド確立に向けての具体的一歩を踏み出す。
 - ・ 周辺業界との連携を強化。
 - ・ 広報ルール、チェック機能を強化。

● 計画の要点、重点目標：

- ・ JAGAT 大会、経営シンポジウムの位置づけのさらなる明確化と動員対前年増
 - ・ 新規イベント企画の実現
 - ・ JUMP 動員増と開催地増とともにセミナー・入会との連携を強力に推進
 - ・ 印刷白書 300 部販売
 - ・ 情報マガジン TF（テクノフォーカス）リニューアル
 - ・ Web 情報配信、Web マーケティングのトライアル
 - ・ 公益認定による記者会見開催
 - ・ 西部支社 40 周年 『JAGAT info』など広告出稿増、記念の JUMP 近畿開催
- ※会員サービスの見直し（内容・発信方法）

◆ イベント他

● JAGAT大会

6月15日（水）東京コンファレンスセンター・品川にて開催。

- ・ 全体テーマ：「印刷新創業宣言～高い志と本物の勇気」
- ・ 構成：
 - 特別講演：
「印刷ビジネス再生へ向けた変革と挑戦」(株)せおん 代表取締役社長 越純一郎氏
 - 分科会：
 - ①マーケティング分科会「変革時代のマーケティング戦略」
 - ②クロスメディア分科会「情報爆発化時代のクロスメディア戦略」
 - 懇親パーティー
- ・ 分科会に両方ご参加いただくために、1社複数参加割引を設ける。

● JUMP

昨年度実施の4カ所（東北・中四国・近畿・中部）に加え、23年度は九州で企画推進メンバーを立ち上げ、合計5カ所で開催する。

各地域での開催には、入会＋地方セミナーをセットで考え、集客・運営等を行う。

- ・ JUMP東北2011：8月26日（金）予定 宮城県印刷会館
 - * 今回の大地震を考慮して、どのような開催方法があるかを検討する。
- ・ JUMP中国・四国：10月20日（木）予定 KKRホテル広島
 - * 夢メッセとの連携と協力。資格制度と人材教育の解説セミナー等の提供も視野に入れている。

- JUMP近畿：11月4日（金） 太閤園
*西部支社創立40周年記念にからめ、新たな企画を持って多くの団体に呼びかける。
- JUMP中部：1月20日（金）予定 ガーデンパレス名古屋
*光文堂との連携を継続。
- JUMP九州：11月18日（金） 福岡ガーデンパレス
*企画推進メンバーに、印刷を通して地域の活性化、貢献を実現するための企画立案、アドバイス、活動をお願いする。

●経営シンポジウム

11月22日（火）千代田区立内幸町ホールにて開催。

JAGAT大会との差別化を図ることと新機軸を考える。事前に会員アンケートもしくは、Web登録者へのアンケートを実施して、その結果に対してのディスカッション、ワークショップを展開し、事例紹介にとどまらずより事例研究的な方向に振り、会場全体を巻き込んでいく方式をとることを検討する。

・内容案：

全体テーマは未定だが基調講演では実際の経営戦略を考える場にしていく。

①経営ワークショップ

②人材教育に関するワークショップ

モチベーション、リーダーシップ、キャリアなど、人の心理・生涯発達に関わるテーマを検討。

◆印刷白書

白書はJAGATの調査研究の年間成果であるとともに、公益事業の一環として、印刷・同関連業界だけでなく、広く産業会全体に役立つ年鑑とする。関係省庁、各団体をはじめ印刷図書館、会員代表者に無償配布する。

・構成案：

第1部特集：社会とメディアの動向

①大震災；震災の印刷業界への影響と復興に向けた提案など

②公益性；公益性の今日的意義と公益法人改革後の社会のあり方など

③メディアの使命；印刷・メディア産業の本質的な使命と今後のあり方など

第2部：印刷・関連産業の現状

印刷産業の動向；印刷産業の現状を業界外から見ても分かるように解説

技術トレンド；印刷産業の現状を技術面から概説、トピックはコラムでも解説

関連産業の動向；関連産業の現状と課題を印刷業界の視点から解説

第3部：ロードマップ

印刷産業の経営課題；中長期的な視点で取り組んでいくべき課題を解説

巻末資料

JAGAT 設立以来の印刷・関連産業年表、印刷・同関連業に関する主要統計調査の概要、印刷産業・関連団体アドレス

◆新企画等

●新企画イベント

- JAGAT大会の「クロスメディア分科会」の延長線上にクロスメディア浸透のイベントを企画し、資格試験にも結びつける。
- JAGAT大会の「マーケティング分科会」の延長線上に経営シンポジウムとつなげるための経営者向けセミナーや中型セミナーを教育サポート部と連携して企画を検討する。

●Web関連

TF（テクノフォーカス）リニューアル。また、企業紹介ページを作成し、新入会促進の一環にする。

●印刷・メディア検定

23年度中の資格化は難しく、基本図書を「3000部＋電子書籍化」をモデルとして出版を目指す。

■企画開発室

●機関誌『JAGAT info』の刊行

本誌：平成23年4月～平成24年3月の毎月、12冊（No476～No487）

※平成24年度から全印工連『日本の印刷』とのコラボレーションに向けて、検討委員会を継続する。

●雑誌『プリバリ印』の刊行

本誌：平成23年4月～平成24年3月の毎月、12冊（vol.26～vol.37）

※“印刷応援団（印刷業界／印刷会社の広報誌）”をミッションとし、特集を展開する。

●新商品：

・通信教育コース改訂等・・・教育サポート部との連携

通信教育の内容の古さなど教材の問題があるものから先に改訂し、それを訴求して販促につなげたい。

改訂候補：

「新入社員コース」 ※内定者教育に採用されるよう訴求する

「カラーマネージメントコース」

新コース候補：

「クロスメディアエキスパート論述試験対策コース」（仮）

・刊行物改訂等

増刷：

『DTPエキスパート受験サポートガイド』

『クロスメディアエキスパート受験サポートガイド』

※上記2点は改訂も視野に入れる

『実例でわかるデジタルイメージング』

『新 印刷メディアの基本設計』

改訂候補：

『印刷入門』

『製本加工ハンドブック技術概論編』